

# 東京の低層住宅地における「表出」と「あふれだし」の実態

工藤 裕輝（指導教員 八尾廣）

## 1 はじめに

住宅地において、住民によって手入れされた植栽や鉢植えなどはまちの景観に良好な影響を及ぼす。一方で、生活からあふれ出たものによって景観が損ねられることもしばしばある。それらは地域の歴史や地形条件など様々な要因によって多様な日本の住宅地の風景を生み出しているが、日常の風景に埋没し見逃されがちである。そこで、住民が住みながら手を加え、あるいはしつらえて、街路景観に現れてくる「もの」に着目し、これらを領域論でしばしば用いられる「表出」と「あふれだし」の概念を以って調査・分析を行い、見逃している実態を把握して建築計画や都市計画における手法にいかんか反映するか、その可能性を探ることを本論文の目的とする。

## 2 「表出」と「あふれだし」の定義

鈴木成文他著『「いえ」と「まち」』（鹿島出版会）には「表出」と「あふれだし」について詳しく論じられているが、これを参考にしながら本論において取り扱う「表出」と「あふれだし」について下記のように定義した。

### 2.1 「表出」

植木鉢や置物などの飾り、趣向を凝らした表札など、住み手が我が家を美しく見せたり何らかの独自性を発揮したい、との意識から外に向かってしつらえる行為及びその行為によって現れたしつらえそのもの。

### 2.2 「あふれだし」

おおむね意識的な自己表現である「表出」に対して、生活の必要に迫られて致し方なくあるいは無意識的に出てくるもの。

## 3 調査概要

### 3.1 調査対象地

多様な住宅地が分布する東京都を対象とし、性格の異なる低層の住宅地を選定した。（なお、事前予備調査として調査を行った古松台も、典型的な郊外の新興低層住宅地の一例として参考にした。）（表-1 参照）

表-1 調査地概要

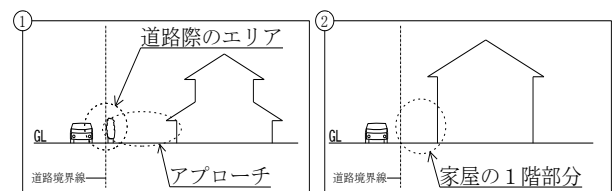
調査地	永山 (多摩市)	聖ヶ丘 (多摩市)	田園調布 (大田区)	北沢 (世田谷区)	世田谷 (世田谷区)	西片 (文京区)	南池袋 (豊島区)	月島 (中央区)	東四つ木 (葛飾区)	古松台 (厚木市) ※
位置	西部郊外		西部		山の手線内			東部		
開発時期	昭和後期 (高度成長長期)	昭和後期 (高度成長長期)	昭和初期	昭和初期	昭和後期 (高度成長長期)	明治初期	明治後期	明治後期	昭和初期	昭和後期 (高度成長長期)
戸数	103	43	20	63	58	53	49	66	67	160

※事前予備調査

### 3.2 調査範囲

日本の都市における低層住宅地では ①敷地にゆとりのある場合は、家屋が道路面よりセットバックし、道路に面して生垣やフェンス、門などが設えられるケースが多く ②敷地にゆとりのない場合には家屋が直接道路に面するものの、2階以上の窓辺に花などが飾られているケースは極めて少ない。今回の調査で、そのことはよりはっきりと確認ができた。「表出」と「あふれだし」に着目した場合①のケースでは、これらが見られるのは敷地の道路境界線に沿ったエリアに集中し、②のケースでは、家屋の1階部分の道路に面したエリアおよび、敷地内においては家屋へのアプローチ等、道路から見通せるエリアに集中している（図-1 参照）。以上のことから、2階以上を除く道路から見える範囲内を対象とした。

図-1 調査範囲



### 3.3 調査方法

上記の範囲に存在するものすべてを写真撮影を行い、「表出」と「あふれだし」を抽出し記録する。（撮影にあたっては、原則としてすべての住戸で1戸ずつ撮影許可を取り、承諾を得た住戸に限っている。）

## 4 調査結果と考察

### 4.1 調査結果

この調査で、合計 54 項目の要素を発見し、表出に 4 分類 34 項目、あふれだしに 2 分類 16 項目分類でき、どちらにも分類できない要素が 4 項目確認された。

抽出した要素は住戸ごとに「ある／ない」で記録し、各地域・各要素の調査戸数に対する「ある」の割合を出すことができた。各地域の調査戸数が異なるため分析においてはこの割合を用いている。なお「準装飾」「時間変化あり」「その他」については、不確定要素として分析の際は除いた。(表-2を参照)

図-2 「表出」と「あふれだし」の分類図

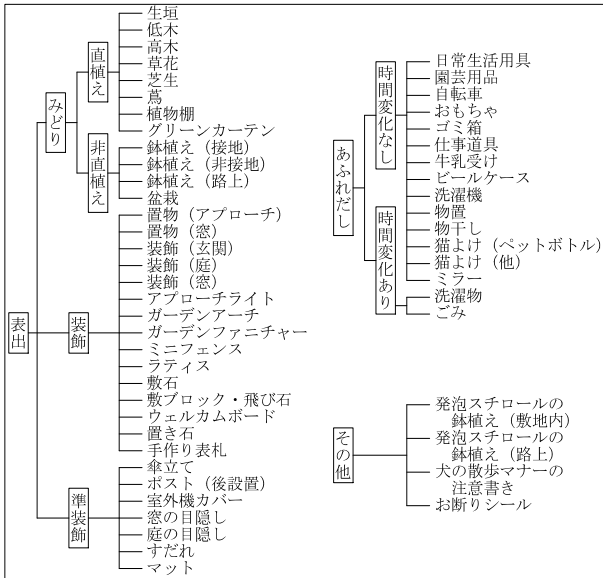
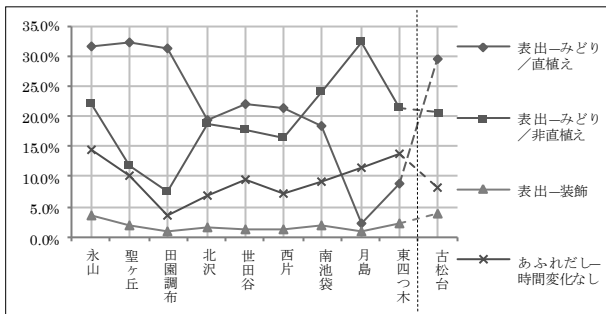


表-2 各分類の説明

直植え	地面に直接植えられている植物。
非直植え	地面に直接植えられていない植物。
装飾	そのものが装飾のもの。
準装飾	固有の機能を持ち、必ずではないが装飾されたり装飾としてつけられるもの。
時間変化なし	時間帯による出現の有無に変化のないもの。
時間変化あり	時間帯による出現の有無に変化のあるもの。
その他	どちらの定義にも属さない、または完全に属さない要素。

図-3 各分類内の要素の平均値



### 4.2 考察

#### 4.2.1 「表出」と「あふれだし」の潜在的情報

「表出」と「あふれだし」の各要素は潜在的な住民の意識やまちの特徴を示す場合がある。例えば「自転車」や「日常生活用具」が住戸の前にあふれでているとした時、“地域の治安に対する信頼”が仮に読み取れはしないだろうか。もし窃盗事件が多い地域ならば、住戸前のそういったものは少ないのではないかということであり、そのまちでは窃盗の心配が少なく治安が良いのかもしれないという、潜在的なまちの特徴を示すのではないだろうか。

図-3のグラフを見ると、田園調布ではあふれだしが少なく、永山では多いが、上記のことが言えるのか。

田園調布の住戸の多くに警備の表示が見られることから、窃盗などの心配をする意識がうかがえる。一方、永山では住民と話をする機会があり、「このあたりはみんな顔見知りだし、住民の誰かしらが外を見ている」と伺い、まちの治安に対する信頼を感じた。このことから上記のことは当てはまると思われる。

#### 4.2.2 「表出」と「あふれだし」の伝播とそれらが

もたらす「まち」の印象

こうした住戸の前に現れる「もの」は伝播する。

今回の調査で、同じ種類と思われる植物が近隣の住戸でもみられるという体験をし、それによって“〇〇が多いまち”という印象を生んだ。これは植物以外にもみられ、実際に抽出したデータを見ても近隣の住戸でデータの抽出項目が似ていることがある。

これは体験を裏付けるものであるとともに、「表出」と「あふれだし」は近隣に伝播し、“〇〇が多いまち”などのイメージを創りだすものという証明でもあると言えると思われる。

## 5 まとめ

これらの調査と考察で「表出」と「あふれだし」には、住み手の隠れた意識が隠れており、まちの印象に対しても大きな影響を与えることが改めて確認された。逆に言えば、「表出」と「あふれだし」をしつらえられる場をいかに計画するかは、まちづくりにおいて重要な因子となりうるということがわかった。

参考文献) 鈴木成文他:「いえ」と「まち」、鹿島出版会、1984年